

〔にしみたか学園の教育目標〕

『地域に根ざし、自らの生き方を主体的に切り拓き、創造性あふれ、国際性豊かな児童・生徒の育成を目指す』

- 学び続ける人
- 共に生きる人
- たくましく伸びゆく人

〔平成31年度 にしみたか学園の目指す児童・生徒像〕

「自ら考え、行動し、自ら未来を切り拓いてく児童」「失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく児童」

〔井口小学校の教育目標〕

- ・輝く笑顔
- ・やりぬく強さ
- ・進んで学ぶ井口の子

〔目指す学校像〕

- 思いやりの心を育てる学校
- 学力を伸ばす学校
- 安全、安心、健康な学校

〔目指す教師像〕

- 人権意識の高い教師
- 教育のプロとして専門性の高い教師
- 子どもを愛し、児童、保護者、地域から愛される教師
- 組織の一員として社会性をもった教師

〔今年度の重点目標と方策〕

	重点目標	方策
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学力の向上</li> <li>●体力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの利活用を図り「主体的、対話的、深い学び」の実現を目指した授業モデルを開発する。</li> <li>・放課後補習、地域未来塾、サマースクール等を活用し、基礎・基本の定着をはかる。</li> <li>・国、都の学習調査結果を8月末までに分析し、家庭と課題を共有して指導に当たる。</li> <li>・UDの視点を取り入れた授業づくりに関する校内研修を行い、個に応じた指導の工夫を図る。</li> <li>・学年内教科担任制を取り入れて、個々の専門性を高め、指導の効率を上げる。</li> <li>・地域の教育力をいかしてプログラミング教育を導入し、論理的思考力の基礎を育成する。</li> <li>・外遊びを奨励し、共に体を動かす楽しみを体感させる。</li> <li>・コーディネーションを効果的に取り入れて、さまざまな体の動かし方を体得させる。</li> <li>・食育週間、ミニ食育等、食育の充実を図り、食や健康に対する関心を高める。</li> </ul>
生活指導 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的生活習慣の定着</li> <li>●自他の大切さを認め合う態度の育成</li> <li>●いじめの早期発見、早期解決</li> <li>●自らの生き方を考える機会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつ」「ことばづかい」「整理整頓」を指導の重点において全校体制で取り組む。</li> <li>・すべての教育活動を通じて人権意識を養い、いじめのない学校風土づくりに取り組む。</li> <li>・配慮の必要な子どもについて、定期的に校内委員会で検討し、本人にとって最適な学習環境を整備する。</li> <li>・生活指導上の諸問題には、関係機関との連携を図り、学年主任を中心に組織的に取り組む。</li> <li>・6月、11月には、ふれあい月間の結果をもとに「全員面談」の機会を設ける。</li> <li>・都SCと市SCの連携を強化し、校内の課題を共有化させ「いつでも相談できる環境づくり」を目指す。</li> <li>・小々連携(自然教室)、小中連携(プレ講座・部活体験)活動について、キャリア教育の視点で実施計画を見直す。</li> </ul>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●チーム井口の強化</li> <li>●小中一貫教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学年の子供を学年の教員で育てる」の意識を強化し、学級王国、教科エゴを許さない風土を醸成する。</li> <li>・専科教員は専科主任を中心に、計画的、組織的にサポートに入る体制を構築する。</li> <li>・学校、家庭、CS、地域、関係諸機関と協力して健全育成に取り組む。</li> <li>・にしみたか学園の子どもの課題を明確化し、目指す児童像を共有して研究に取り組む。</li> </ul>
特別活動 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域とともに子供を育てる教育の推進</li> <li>●生涯スポーツや共生社会に対する理解の育成</li> <li>●働き方改革の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域のサポート力を生かした授業づくりを計画的にすすめる。</li> <li>・地域行事への参加者を増やし、相互の交流を図って地域基盤の強化を図る。</li> <li>・「知る」「見る」から「する」「支える」へと重点を変えて、オリ・パラ学習の指導計画を見直す。</li> <li>・すべての行事について、できるだけスリム化を図り、子どもと向き合う時間を生み出す。</li> <li>・資料の事前周知や検討事項の明確化を図り、会議の時間の短縮を図る。</li> </ul>